

2年ぶり開催の味覚イベント 6000人が舌鼓

宇出津港のと寒ぶりまつり

宇 出津港のと寒ぶりまつりは1月22日、宇出津港いやさか広場を会場に開かれました。昨年は不漁のためイベントが中止となり、来場者の動向が心配されましたが、冬の味覚を求めてのべ6000人も人が来場し、冬の能登の味覚に舌鼓を打ちました。イベントは弥栄太鼓保存会による勇壮な太鼓で幕を開き、続いて行われた寒ブリの解体ショーには幾重にも人垣ができました。



会場には海産物を中心とした31のグルメテナントが勢ぞろいし、美味しそうな匂いを漂わせました。ぶりしゃぶなどのメニューを求め、昼時には長蛇の列ができ、盛況を見せました。メインテントでは金沢市のアカペラグループ「ひだまりJAPAN」の5人がアニメ主題歌や昭和の歌謡などをアレンジして披露し、会場に華を添えました。



「ひだまり JAPAN」のステージ

ブリの即売では、市価よりも4割ほど安いこともあり、切り身や刺身に加え、一尾丸ごと買い求める人が列を作りました。



立派なブリが一尾丸ごと販売された



オープニングを飾った弥栄太鼓



会場に並んだグルメテントでは、ぶりしゃぶやぶり大根、タラ鍋など、能登の冬の食材が提供された



寒ぶりの解体ショー

脂 のがった12キロの寒ぶりを解体し、刺身として振る舞いました。立派なブリを解体する鮮やかな包丁さばきに多くの人が熱い視線を注ぎました。



ブリの刺身の振る舞いには長蛇の列ができた



寒ぶりまつり主催者の解説に耳を傾けるツアー参加者

寒ぶりまつりに合わせてモニターツアー実施

能 登杜氏のふるさと能登町を巡る「聖地巡遊」のモニターツアーが1月21〜22日の1泊2日で開催され、首都圏などから20人が参加しました。初日は酒造り真つただ中の松波酒造で酒造り体験をしたほか、柳田植物公園でアエノコト実演を見学。ラプロ恋路では蔵元と食談義に花を咲かせました。2日目は寒ぶりまつり会場で思い思いにテナントを巡り、能登の冬の味覚を楽しみました。

観光客数が落ち込む冬の誘客につなげようと、能登町の冬の魅力を詰め込んだ今回のツアーは、募集開始直後の短時間で定員に達しました。参加者アンケートには「満足度の高いツアー」「人の温かさを感じた」という意見が寄せられ、能登の地酒と食の組み合わせに、多くの人が関心を持ち、高い満足度を感じた様子が見られます。

